

49

共十一本

東泉園書				
類	屬	一函	三架	四九号
一册				

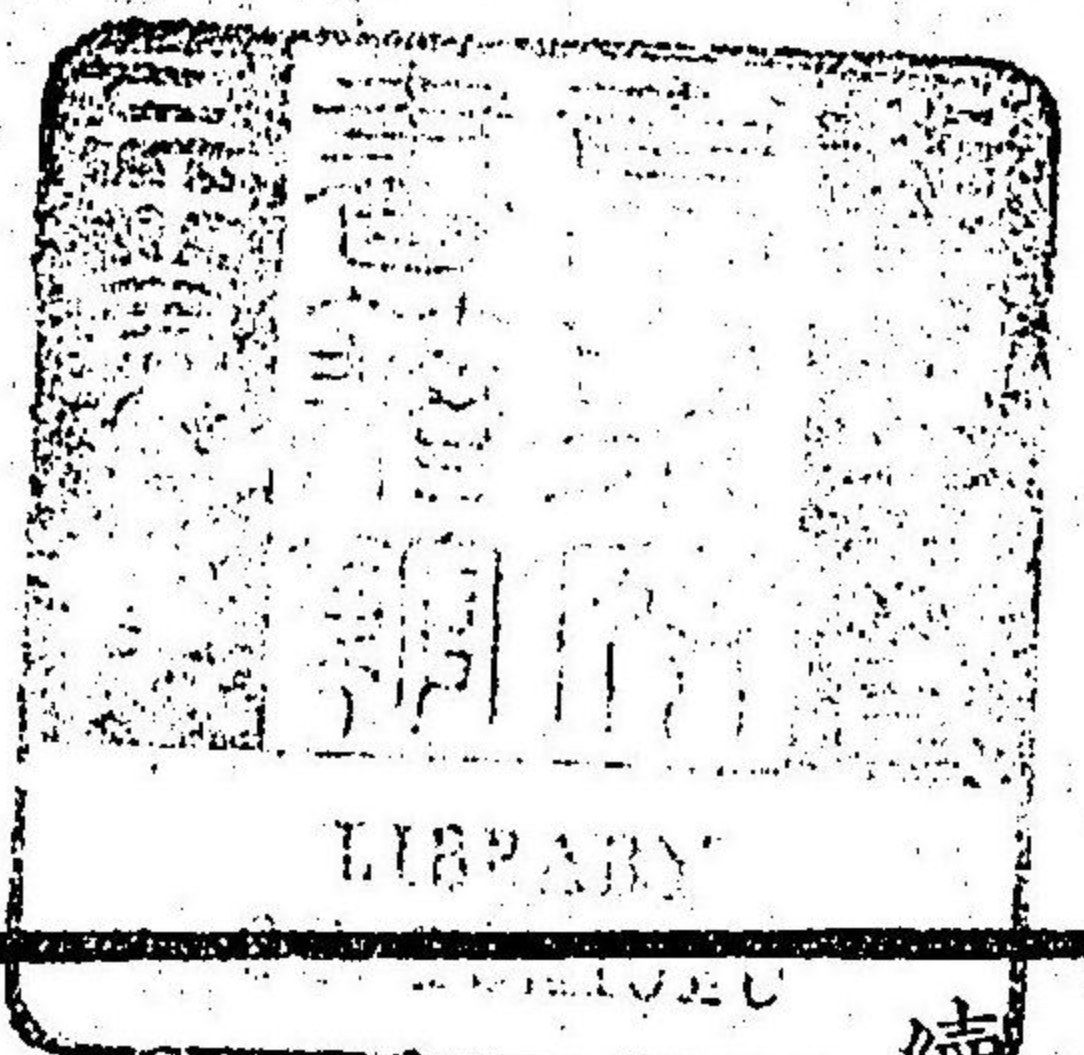
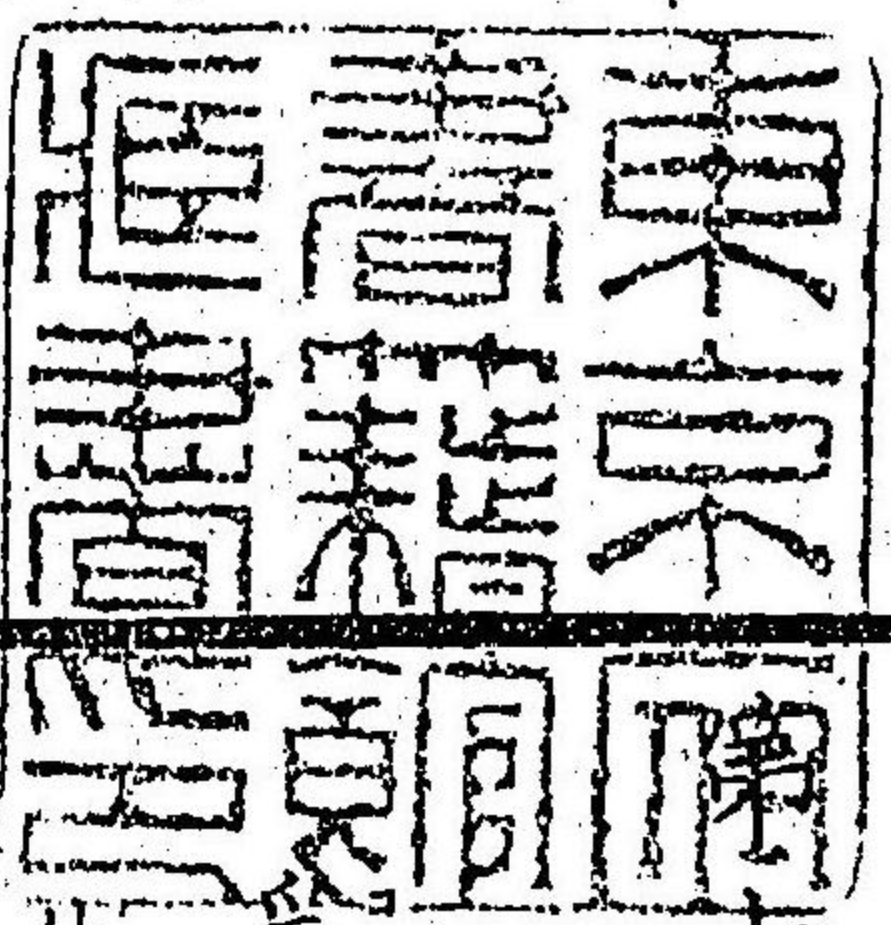
横山成教
渡邊義雄
佐々間希清

續擬律必携

三

13010. 7

C2
711
02



續擬律



他ノ一客行装中ノ貨幣ヲ盗取スルニ物主之
 ヲ覺知シ稠シク同宿者ヲ糾尋スルヲ以テ潛
 年二月八日指令同八年一月
 濱田縣伺
 東客數名アリ俱ニ逆旅ニ投ス一名窃ニ

横山成教
 渡邊義雄同輯
 佐久間希清

續擬律

卷三

一

ニ其盜賊ヲ投還スト雖モ物主尚其事由ヲ推究シテ止マス茲ニ於テ盜犯罪ノ免ル可ラサルヲ知リテ犯情ヲ物主ニ訴ヘテ罪ヲ謝ス其情タル專ラ法ヲ畏ル、ニ出テ、過ヲ悔ヒ正ニ及ルノ者ニ非ス之ヲ律例ニ照擬スルニ自首全免ヲ與ノレハ寬宥ニ過ルカ如ク知告聞捕等ニ依レハ又甚タ苛刻ナルヲ覺フ之ヲ處スル如何ニシテ可然哉

指令

事主ヨリ其名ヲ指スニ非ス一般ヲ推究スル

ニ首服スル片ハ未發自首ト同シク論ス若シ其名ヲ指シテ推究スレハ竊盜未得財ヲ以テ論ス

第七十一條 明治八年三月二十日指令同八年

二月二十八日福島縣伺

共ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セスシテ他方ニ出テ年月ヲ經テ復歸シ共犯人己ニ官ノ斷決ヲ經ルヲ聞キ自カラ出首スル者如何減等可然哉

指令

自首ヲ與フル可キ犯罪ハ放免ス

第七十二條 明治八年三月二十三日指令同八

年三月四日飾磨縣伺

御省日誌客歲第二十七號白川縣ヨリ賭博ノ儀ハ現行犯罪ノ者捕縛糺彈其罪ヲ問フハ勿論ノ處既往ノ犯事モ精密搜索ヲ遂ケ盜犯等ノ如ク捕獲罪ヲ問フヘキ裁ノ伺御指令ニ既往ノ犯事精密搜索ヲ遂ルニ及ハス止夕現行犯罪ノ者ニ限リ罪ヲ問フヘシトアリ是ニ由テ之ヲ考フレハ賭博ハ現行ノ者ニ限リ罪ス

ヘキノ適旨ニ可有之處盜罪或ハ闘毆等ノ罪發覺捕ニ就キ糺問ノ際ニ臨ミ其犯事元來賭博ヨリ發起スルニ付原由ヲ吐露為サ、ルヲ得ス裁判官モ亦之ヲ不問ニ置ク能ハス遂ニ其顛末ヲ罪案書ニ登記シ之ヲ律ニ照スニ盜罪或ハ闘毆ノ罪ハ懲役五十日乃至三十日ニ有之右賭博罪ハ其犯事ノ原由ナルカ故包藏スル能ハスシテ吐露スルニ付例第六十條ニ比引シテ未發自首ト見做スヲ得サレハ名例律二罪俱發一ノ重キニ依リ懲役八十日ニ

處ス可キ裁將夕賭博ヨリ起リタル犯事ナリ
ト雖モ刑名別異ナルニ付官罪名知ラサルニ
該犯吐露スル上ハ自首ト見做シ盜罪或ハ闘
毆ノ罪ノミヲ科シ可然哉

指令

賭博ハ未發自首ト同ク罪ヲ免ス

第七十三條 明治八年三月三十一日指令同月

二日水澤縣伺

第一 例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ル
ノ後再ト同罪ヲ犯ス者ハ減免ヲ聽サス若シ

前後犯罪各別ナル者ハ此限ニ在ラスト若シ
竊盜ヲ首シ減免ヲ經ルノ後チ強盜ヲ首シ及
ヒ強竊盜ヲ首シテ減免スル後監守常人盜ヲ
首シ若クハ准盜ヲ首シテ減免スル者再ヒ監
守常人強竊盜ヲ首スルノ類前後罪名異アリ
ト雖モ其盜罪タル一ナレハ並ニ同罪ヲ首ス
ル者ト同ク減免ヲ聽サス可然哉
第二 強竊盜ニ真犯アリ以論ノ罪アリ罪同
ノ罪アリ准盜ニ詐欺恐喝取財等ノ別アリト
雖モ概シテ之ヲ稱スレハ強竊准盜ノ外ニ出

テス其恐喝ヲ首シ減免ヲ與フル者再ヒ詐欺
取財ヲ首シ強竊盜真犯ヲ首シ減免ヲ經ル後
以論罪同ノ罪ヲ首スルモ并ニ同罪ヲ首スル
者ト見做シ可然哉

指令

二條共同ノ通 但棄毀器物等ノ准盜ハ此限
ニアラス

第七十四條

明治八年四月二十九日指令同年

三月二十三日水澤縣伺

凡子弟逃亡スレハ戸主タル父兄其管廳ニ申

報シ廳日月ヲ限リ搜索ヲ命ス後父兄其子弟
ノ所在ヲ聞キ人ヲシテ之ヲ引キ還シ其事由
ヲ陳告スルアリ如此ハ復歸スト雖モ自首ヲ
以テ論セサル儀哉

指令

自首ヲ以テ論ス

第七十五條

明治八年十月十五日指令同八年

九月三十日京都裁判所伺

新律犯罪自首條ニ別居四等親以下ノ親屬為
ニ代首スルモ其本犯ニ於ル減等ノ法ナシ然

ルニ親屬相為容隠條ニハ四等以下ノ親屬容
隠スルハ凡人ニ三等ヲ減ストアリ又于名犯
義條其卑幼ヲ告ルニ實ヲ得ルハ四等五等親
ノ卑幼ハ本罪ニ三等ヲ減ストアリ若シ然レ
ハ其別居四等親以下ノ親屬ニシテ為ニ代首
スルモ其本犯ノ罪右親屬容隠律及ヒ于名犯
義律ノ減等ニ比シ是亦三等ヲ減セサレハ法
律ノ權衡平ヲ得サル様考候ニ付試ニ清律ヲ
查候所犯罪自首條例ニ小功總麻親首告得減
罪三等云々相見候間若シ其四等五等ノ親屬

為ニ代首スル者於有之ハ本犯ノ罪三等ヲ減
シ可然哉

指令

律例中明文ナキニヨリ事情ヲ酌量シ裁判官
ノ見込ヲ以テ輕減スヘシ

第七十六條 明治八年十一月二十四日指令同

八年十一月二日東京裁判所伺

第一 竊盜三犯ノ者自首シテ賊徵ス可カラ
サル者減等ノ儀律ニ明條無之明治六年前第
九號日誌香川縣伺ニ竊盜ノ科ヲ以テ再度處

刑濟尚竊盜八圓ヲ犯シ自首シテ贓徴ス可カ
ラス右ハ懲役十年ヨリ二等ヲ減スルカ將タ
前キノ犯數ヲ不問贓金壹圓以上杖六十ヨリ
二等ヲ減ス可キ哉ノ御指令ニ杖六十ヨリ二
等ヲ減シ處決スヘシトアリ右ハ律例御頒布
前ノ御指令且本年百三號御布告ニ依リ援引
ス可キ者ニハ無之候ヘ尺向後モ尚同様ノ犯
罪者ハ前文同一ニ處分シ可然哉

第二 若前條御指令ノ如クナラス持兇器強
盜財ヲ得ル者ノ如キモ自首シテ贓徴ス可カ

ラサル片ハ強奪ノ情ハ首免ヲ與ヘ唯贓ヲ計
ヘ竊盜ヲ以テ論シ減等ス可キニ似タリ然リ
ト雖尺強竊ハ犯情自ラ別ナル者ニ付右ハ強
盜本罪ヨリ減等シ可然哉

第三 自首シテ贓徴ス可カラサルニ依リ二
等ヲ減シ及ヒ人ノ官ニ陳告セント欲スル
ヲ知テ自首シ二等ヲ減シ處分スル者何レモ
犯數ニ計ヘ候處一体右兩條ノ犯人真情ニ於
テハ大ニ徑庭スル所アリ人ノ告ントスルヲ
知テ自首スル如クハ真心悔悟トモ難申贓不

徴ノ者ニ至リテハ真心悔悟スルニモ其無力ナルヨリ止ヲ得ヌ減等ノ處分ニ係ル者故右ハ犯數ニ計ヘサル方穩當ニ可有之哉

指令

第一 伺ノ通

第二 強盜ノ本罪ヨリ二等ヲ減ス

第三 自首シテ賊徴ス可カラサル者ハ犯數ニ計ヘス

第七十七條 明治八年十二月十九日指令同八年五月五日水澤縣伺

二人共ニ罪ヲ犯スニ一人捕ニ就キ一人ハ未タ捕ニ就カス其捕ニ就カサル者共犯人ノ己ニ拿縛セララル、ヲ聞キ已レノ罪科モ從テ發露セン、ヲ知リ真ニ罪ヲ悔ル心ナク畏懼ノ餘リ首出スル者アリ右等ノ如キハ人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スル者ヲ以テ論シ可然哉

指令

伺ノ通

第七十八條 明治九年一月九日指令同八年五

月九日東京裁判所伺

博徒已ニ其事ヲナスノ際之ヲ捕獲セシトス
 ルニ下リ逃走スル者後々悔テ自首スト雖モ
 素ヨリ事發覺シテ自首スル者減等スル限ニ
 アラサル儀ト相心得居候所本年日誌五十三
 號京都裁判所ヨリ賭博者アリ捕吏ノ到ルヲ
 見テ逃走スル云々伺指令ニ但シ自首スル者
 聞捕自首ヲ以テ論ス云々ト之アリ果シテ然
 ラハ從容就縛者ハ本罪ヲ科シ一時逃走シテ
 自首スレハ減等ヲ得ルモ情實總當ナラサル

ヲ覺フ若シ如此者逃走シテ五十日乃至二年
 以外ニ至リ首出スルモ其逃罪ハ首免ヲ與ヘ
 或ハ贖ヲ聽スモ本罪ハ猶減等セザル方ニハ
 有之間敷哉

指令

罪囚ノ罪ヲ畏レ逃走スルハ常ノ情狀ナレハ
 其逃走スルヲ以テ後々自首ヲ聽サバルノ理
 ハ之ナシ已ニ自首ヲ聽ストセハ未首就縛者
 ト同シク論スルヲ得ス伺面ノ如キ聞捕自首
 ヲ以テ論スヘシ

第七十九條

明治九年一月二十二日指令同八年十二月四日度會縣伺

犯罪自首律ニ曰自首シテ贓徴スヘカラサルハ二等ヲ減ス又曰凡罪ヲ犯シ事已ニ告發ヲ經ルト雖モ本犯未タ知ラス云々自首スル者ハ未發自首ト同シク並ニ罪ヲ免スト譬ヘハ茲ニ二人共ニ金六十圓ヲ盜ミ三十圓ツ、賊ヲ分チ各逃走スル所ヲ異ニスル者アリ其從ナル者先非悔悟シ分贓三十圓ヲ携ヘ自首スルモ尚全免ヲ得ヘカラス於是資力ヲ盡シ三

十圓ヲ併セテ全贓ヲ償ヒ全免ヲ得ル後亦首ナル者モ其告發ニ至ルヲ知ラス悔悟シテ自首スルニ贓ハ已ニ從ナル者ヨリ償ヒタレハ贓徴スヘカラサルモ全免ヲ得ルニ似タリ然レモ從ノ言ノ如ク分贓明白ナル上ハ前ニ從ノ償ヒタル三十圓ノ全數ヲ追シテ役ニ給セザルヲ得不然ルキハ贓徴スヘキモノトシ全免ノ與フヘキ歟若然ラハ從ナル者ハ速カニ悔悟シ自首シテ一時全贓ヲ償ハサレハ全免ヲ得難キノ不幸アリ首ナル者ハ其悔悟モ遲

クシテ却テ半贓ヲ償ヒ全免ヲ得ルノ幸アリ
テ權衡平ヲ得サルニ似タリ如斯ハ其首從ニ
拘ハラズ自首ノ前後ヲ問ハス分贓ヲ償ヘハ
全免ヲ與ヘ可然哉 但其分贓全ク徵スヘカ
ラサルキハ其虧欠スル數ヲ計ヘテ罪ヲ定メ
二等ヲ減シテ然ルヘキ哉

指令

分ツ所ノ贓ヲ追シテ其罪ヲ免ス 但書伺ノ
通

第八十條 明治九年三月三日指令同年一月十

七日茨城裁判所伺

明治八年本省日誌第一百號愛知縣ヨリ故テ
ニ火ヲ放テ人ノ宅舎ヲ燒キ後チ自訴スル者
首免ヲ聽スヘキ歟ト伺出ルノ所首免ヲ與ヘ
スト御指令アリ然ルニ綱領律例中放火首免
ヲ與フ可カラサルノ律意明文ヲ見ス試ニ明
律ヲ閱スルニ犯罪自首條々例人ノ房屋ヲ燒
クハ自首ヲ不准ノ明文アリト云ヘ凡清律ニ
至テハ其條例ヲ刪除シ首免ヲ與ヘサルノ明
文ナシ其明文ナキ所以ノモノハ首免ヲ與フ

ルヲ得ルノ律意ナルヘシ夫レ放火ノ情罪兇
 惡實ニ惡ムヘキト云ヘ凡其燒燬スル者ニ於
 テ賠償スルヲ得ヘキ者アリ得ヘカラサル者
 アリ概シテ賠償スルヲ得ヘカラサルヲ以テ
 論スルヲ得ス是ヲ以テ其法ヲ懼レ罪ヲ悔ヒ
 本心過ヲ改メ出首シ其燒燬ノ物ニ於テ賠償
 スルヲ得ル者ハ首免ヲ與ヘ可然哉ニ似タリ
 今首免ヲ與ヘスト御指令アレハ其火ヲ放チ
 人ノ空間^{多カレボカ}房屋^{ボカ}及ヒ田場^{タカ}積聚^{キカ}ノ物ヲ燒キ或ハ
 未夕燒燬ニ至ラサル者モ亦首免ヲ與フルヲ

得サル欤然ラハ放火ニ至テハ賠償スルヲ得
 ル得サルニ關セズ其罪情深重ナルヲ惡ニ首
 免ヲ與ヘサルノ意ナル歟^カ瞭解^カニ難ニ因テ敢
 テ他國ノ律例ヲ援引准據スルノ儀ハ毛頭之
 レナキト云ヘ凡清律^カ新纂^カ放火條ニ掲載スル
 所ノ嘉慶三年山東陽穀縣^カノ一案^カ之^カ畧^カヲ相添ヘ
 愛知縣^カへ御指令ノ意何等ヲ以テ首免ヲ與ヘ
 サルノ儀哉

指令

放火ノ罪ハ人民ノ公益ヲ害スル極メテ大ニ

シテ尋常賊盜ノ吐ニアラス即チ自首ヲ聽カ
ル所以ナリ

第八十一條 明治九年二月十三日指令同八年

十二月二十二日廣島縣伺

茲ニ甲懲役人ノ逃走ヲ企ルアリ乙同囚ニ竊
ニ情ヲ漏シ同逃ヲ謀ル乙伴テ陽ニ同意ス於
是甲又乙ニ脱監ノ具ヲ求ム(假令ハ乙指物職
ノ殊藝アルモノニテ金刃ヲ所持スルモノ)乙
以為與ヘテ報センカ不與シテ報センカ寧口
與ヘテ罪ヲ犯スモ確跡ヲ得テ訟ヘサレハ却

テ誣告ノ罪ニ罹ラレテ恐レ一時ノ權策ヲ
以テ需ニ應シ貸與ス直チニ管守者ニ申報シ
併セテ金刃ヲ與ヘシ罪ヲ自首スルモノアラ
ン是レヲ律ニ問フ例第三百四條ニ依リ無論
減等ニ處シ可然哉將タ苟モ應禁物ヲ擦ニ與
フル罪アルモノニ付犯罪ノ首免ヲ與フル迄
減等ノ恩典ヲ加ヘサルモノカ聊疑團ヲ生ス
如何處分シ可然哉

指令

乙甲ノ逃走ヲ企ルヲ惡ミ之ヲ告ント欲スル

ノ情アレハ其逃走ヲ助クルノ具ヲ與フ可カ
ラス而シテ乙甲ノ求アルヲ幸トシ金刃ヲ與
ヘ以テ口實トナシ逃走ヲ報スルト雖モ第三
百四條ノ逃走ヲ報スル者ト一例ニ看做シ難
シ其金刃ヲ與フルハ首免ヲ與フ可シ

第八十二條

明治九年四月二十六日指令同年

三月二十八日飾磨縣伺

酒類密醸密賣ノ後過ヲ悔テ自首スルハ首免
ヲ與ヘ賣代金ハ仍ホ追徴致シ若シ費用シテ
追スル能ハサル者ハ全免ヲ與ヘス見込ヲ以

テ相當ノ減等ニ及可ク裁

指令

費用シテ追スル能ハサルモ全免ヲ與フ

第八十三條

明治九年四月二十七日指令同年

三月十二日堺縣伺

本年一月二十七日附ヲ以テ自首シテ贓徴ス
可ラス及ヒ陳告自首聞捕自首ノ者犯數ニ計
フ可キ裁否相伺第十七號六候所自首シテ減
等ヲ得ルハ犯數ニ計フ可シト御指令有之御
省日誌昨八年第九十二號東京裁判所伺御指

令ヲ閱スルニ自首シテ贓徴ス可カラサル者ハ犯數ニ計ヘスト之レアリ夫レ陳告及ヒ聞捕自首減等ヲ得ルハ犯數ニ計フルモ贓徴ス可ラサル者ニ至テハ元全免ヲ得ヘキ者ニシテ其無力止ムヲ得サルヨリ減等科斷スル者ト被考犯數ニ計ヘサル方穩當ニ可有之ト疑義ヲ生シ候

指令

伺ノ通犯數ニ計ヘス

第八十四條 明治九年五月十七日指令同年二

月四日熊谷裁判所伺

第一 譬ハ二次ノ盜常^ト人盜賊金一圓竊盜同

一圓ヲ為シ内常人盜ノ一次ヲ首シ已ニ免罪

ノ處分ヲ經然ル後曾テ包藏スル竊盜ノ罪發

覺スル片ハ其罪加フヘキ無キヲ以テ止夕賊

ヲ追シテ不問ニ置キ可然裁斯ノ如キハ犯罪

自首條ニ依リ其不盡ナルヲ以テ更ニ竊盜罪

ヲ全科シ然ル可キ哉

第二 犯罪自首條強盜ヲ竊盜ト首スレハ其

不實ナルヲ以テ強盜ノ罪ニ坐ストアリ若シ

重罪ヲ首シ審問中又ハ己ニ免罪處分ノ後余ノ輕罪發覺スルハ仍ホ曾テ包藏スル輕罪ヲ科シ可然哉

第三 同上竊盜賊金百圓ヲ六十圓ト首スレハ其不盡ナルヲ以テ仍ホ四十圓ノ罪ニ坐ストアリ若シ其盜賊金九圓ヲ一圓ト首スレハ仍ホ八圓ノ罪ニ坐シ又六百圓ヲ三百圓ト首スレハ仍ホ三百圓ノ罪ニ坐シ可然哉

第四 同上自首シ賊徵ス可カラサルハ二等ヲ減ストアリ譬ハ竊盜百圓ヲ六十圓ト首シ

賊徵ス可ラサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役百日ノ處今ヲ經然ル後曾テ包藏スル四十圓ノ罪發覺スルハ仍ホ四十圓ノ罪ニ坐ス可キハ勿論ニ可有之果シテ然ラハ若シ竊盜賊金十圓ヲ五圓ト首シ賊徵ス可カラサルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ懲役四十日ノ處今ヲ經然ル後曾テ包藏スル五圓ノ罪發覺スルハ仍ホ五圓ノ罪ニ坐スヘキ裁將夕此ノ如キハ二罪俱發ノ例ニ倣ヒ本罪懲役六十日ヨリ己ニ決スル四十日ヲ除去シ剩ル懲役二十日

ヲ科シ可然哉

第五 律例第五十九條人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ自首スルハ本罪ニ二等ヲ減ストアリ若シ二罪ヲ犯シ人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知テ輕罪ヲ自首シ減等處分ヲ經然ル後曾テ包藏スル重罪ノ發覺スルモ仍ホ包藏ノ罪ヲ科スヘキヤ將タ二罪俱發以重論ノ例ニ倣ヒ處斷然ル可キ哉

第六 同上向キニ重罪ヲ首シ減等處分ヲ經然ル後曾ニ包藏スル輕罪ノ發覺スルモ前

條ト同シク處斷可然哉

指令

第一 包藏スル竊盜ハ不實ナルヲ以テ竊盜罪ヲ科スヘシ

第二 伺ノ通

第三 九圓ヲ一圓ト首シ又六百圓ヲ三百圓ト首スルノ類ハ賊ノ不盡アリト雖モ罪己ニ盡ルヲ以テ其罪ニ坐セス賊ノ徵フ可カラサル者ハ此限ニ在ラス

第四 本罪懲役六十日ヨリ四十日ヲ除去シ

餘ル二十日ヲ科ス可シ

第五 二罪俱發例ニ照シ前決ノ日數ヲコウシヨ扣除ヒキサル

シ餘ル日數ヲ科ス可シ

第六 第五指令ニ就テ會得ス可シ

○例第六十條

第八十五條 明治八年一月十七日指令同七年

四月十九日滋賀縣伺

改定律例第六十條凡罪ヲ犯シ事已ニ告發ヲ
經ルト雖モ云々仍ホ未發自首ト同ク並ニ罪
ヲ免ストアリ舊惡例モ亦減免スヘキ年數ヲ

經サル内已告發ヲ經ルト雖モ本犯未タ知ラ
ス及ヒ官罪犯ノ名ヲ知ラスシテ年ヲ歴ル者
ハ未發トナシヒモシ喚問ノ日ヨリ計算シ例圖ニ照
シ可減免裁

指令

伺ノ通 但シ本犯未タ知ラスト雖モ官罪犯
ノ名ヲ知ル者舊惡ヲ以テ論スル限ニアラス

○例第六十四條

第八十六條 明治九年四月二十八日指令同年

三月三十一日度會縣伺

律例第六十四條ニ罪ヲ犯シ自首スル者盜賊
 己ニ費用シテ追徴スルヲ能ハサル者ハ二等
 ヲ減スルノ明文アリ明治七年御省日誌第百
 五十六號東京裁判所ヨリ賊罪ヲ犯シ自首ス
 ル者其賊即時追徴スルヲ能ハサル者云々ノ
 伺御指令ニ賠償ノ確証アルキハ延期ヲ聽シ
 即時追徴スル者ト同ク首免ヲ與フトアリ之
 レヲ援引シテ苦シカラサルヘキ歟若シ然ラ
 ハ強竊盜共ニ五十圓ツ、ヲ犯シ其賊ヲ費用
 シ自首スルニ内止タ五十圓ヲ賠償スルノ資

カアルキハ重賊ヲ前キニ強盜ノ賊ヲ追徴
 シテ首免ヲ與ヒ剩罪竊賊五十圓ヨリ二等ヲ
 減シテ罪ヲ科シ其追スル金員ハ各事主ヘ分
 給シ可然哉 但罪犯強盜賊ハ己ニ費用シ竊
 盜賊ノミヲ將テ自首シ其賊分明ナルニ於テ
 ハ強盜罪ノ減二等ニ從ヒ可然哉

指令

但書共伺ノ通

○例第六十六條

第八十七條 明治八年十月二十二日指令同年

十月二日大坂上等裁判所伺

改定律例第六十六條凡罪ヲ首シ減免ヲ經ル
ノ後再ヒ同罪ヲ犯ス者ハ減免スルコトヲ聽サ
ス若シ前後犯罪各別ナル者ハ此限ニアラス
ト有之右同罪トハ罪名同シキ者ノ事ニシテ
假令ハ初メ竊盜ヲ犯シ自首シテ減免ヲ經ル
ノ後再ヒ竊盜ヲ犯シ首出スル者ノ如キヲ云
フ欲若シ初メ竊盜ヲ犯シ自首シテ減免ヲ經
ルノ後再ヒ強盜又ハ監守常人盜等ヲ犯シ自
首スル如キハ監常強盜共ニ賊盜律ノ部類ニ

係ルト雖モ罪名ハ固ヨリ異ナル者ニ付減免
ヲ與ヘ可然哉

指令

監守常人強竊盜ノ犯罪前後相交リ再ヒ首出
スル者ハ均シク盜罪タルヲ以テ同罪ヲ再ヒ
首スルト為シ減免ヲ聽サス

○例第六十七條

第八十八條 明治九年三月十五日指令同年二

月十五日鶴ヶ岡縣伺

改定律例第六十七條華士揆罪ヲ犯シ自首ス

ル者ハ破蕪恥甚ニ係ルト雖モ本條自首ヲ聽スヘキモノハ一體ニ罪ヲ免シ除族スルノ限ニアラスト之アリ右一體トハ贖ヲ聽スヘキ罪モ閏刑ニ處スヘキ罪モ破蕪恥甚ニ係ル罪モ一體ニト云フ儀ナルカ又ハ強竊盜賭博或ハ違令違式等ノ諸罪ヲ指シ一體ト云フ儀ナル哉

指令

改定律例第六十七條ハ自首ヲ聽スヘキ犯罪大レハ破蕪恥甚ニ係ルト雖モ都テ罪ヲ免ス

ルノ義ナリ

○例第六十八條

第八十九條 明治八年二月二十四日指令同七年十二月二日山形縣伺

士族盜罪ヲ犯シ自首シテ賊ノ徴ス可ラサル者ハ改定律例第六十八條ニ比照シ減等セス閏刑ニ處ス破蕪恥甚ヲ以テ論セスシテ可然哉

指令

伺ノ通

第九十條 明治九年三月十五日指令同年二月
十五白鶴ヶ縣伺

改定律例第六十八條華士族罪ヲ犯シ人ノ告
ント欲スルヲ知テ自首スル者本條自首ヲ聽
ルスヘキ者ハ罪減等セスニテ閏刑ニ處シ破
蕪恥甚ヲ以テ論セストアリ右ハ人ノ告ント
欲スルヲ知テ自首スル者ニ限り候哉又ハ
同第六十四條ノ如キ賊罪ヲ犯シ賊徴スヘカ
ラスシテ二等減ノ者並ニ同第二百四十九條
寶貨偽造ノ情ヲ知テ云々ノ二等減ノ者モ同

第六十八條ノ權衡ニ依ルヘキ哉
若シ右第六十七條ノ一体ハ諸罪ヲ指シテ云
フトニシテ第六十八條ノ罪減等セスニテ閏
刑ニ處ストアルハ人ノ告ント欲スル者ニ限
ルトノトナレハ疑團ヲ懷カサルヲ得サルト
アルナリ令爰ニ士族ニシテ寶貨偽造ノ情ヲ
知テ既ニ行使シ過ヲ悔テ自首スル者アリ第
二百四十九條寶貨偽造ノ情ヲ知テ買使スル
ハ懲役終身若シ過ヲ悔テ自首スル者既ニ行
使スルハ二等ヲ減ストアルニ依リ懲役七年

ナリ假令減等スト雖モ破蕪恥ハ免カレサル
ニ依リ減等ノ儘處斷スルキハ實斷ノ七年當
ヲ得タリト雖モ六十七條ニ依レハ自首スル
ニ依リ閏刑ニ處シ禁獄七年ナリ六十八條ノ
權衡ニ依レハ懲役終身タリ何レニ依リ處斷
シ可然哉

指令

全免セスト雖モ自首スルヲ以テ減等スヘキ
罪ナレハ人ノ告ントスルヲ知テ自首スルニ限
ラス第六十八條ニ依リ減等セスシテ閏刑ニ

處ス故ニ偽造寶貨ノ情ヲ知テ行使ニ後自首
スル者ハ第六十八條ニ照准シ禁獄終身ニ處
斷スヘシ

○二罪俱發

第九十一條 明治八年一月十七日指令同七年

十二月二十二日廣島縣伺

爰ニ十圓五拾錢ノ竊盜アリ内一圓五十錢ハ
縣社拜殿ノ金具ヲ盜ニ付改定律第百二十三
條ニ照シ盜大祀神物條釜飯刀七ノ属ヲ盜ニ
准シ竊盜罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日申付刺

ル九圓ノ窃盜賊ニ罪俱ニ發スル例ニ照シ不
 問ニ置可然哉尤事小異アリト雖モ本年御省
 日誌第七十一號一葉大坂裁判所へ御達書ニ
 窃盜賊十五圓餘懲役七十日再犯ニ係ルヲ以
 テ一等ヲ加へ二十圓懲役八十日ト做シ詐欺
 取財ノ賊九十五圓餘ニ併セテ百十圓以上懲
 役七年ニ處スヘシトアリ是ヲ以テ推類セハ
 前章モ亦併賊シテ十圓以上懲役七十日へ一
 等ヲ加へ懲役八十日ニ處シ可然哉果シテ然
 ラハ縣社盜賊ヲ併シテ十圓以上ニ相成然ル

ヲ又加等スルキハ名例律ニ罪俱發條例首從
 ノ賊並發スル時從賊多キハ併セテ一等ヲ減
 スル例ニモボウシニ矛盾スルニ似タリ仍ホ如此ハ只
 併賊シテ加等セスシテ可然哉

指令

伺ノ通併賊シテ加等セス

第九十二條 明治八年一月九日指令同七年十

一月二十五日濱田縣伺

凡罪ヲ犯シ鞫問中親屬隣保等ニ責付中逃走
 シ後之ヲ捕縛スルニ再逃走スル者ハ責付及

捕縛中逃走ノ罪ヲ本罪上ニ累加スヘキ乎或
ハ再度ノ逃走ハ二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ重
キ捕縛中ノ逃走ヲ本罪上ニ可加乎

指令

二罪俱發一ノ重キヲ以テ論スヘシ

第九十三條

明治八年二月五日指令同年一月
十七日東京裁判所同

士族逃亡シ二年以外ニ至リ別罪ヲ犯ス者處
分ノ儀一昨六年七月二十五日附ヲ以テ相伺
候所脱籍逃亡^{ソツキキトボダ}二年ヲ過ル者ハ除族ノ上禄ヲ

収メ族ハ子孫ニ襲カシム故ニ二年外ノ犯罪
ハ平民ト同ク處分スヘシ二罪俱發ヲ以テ論
スル限ニアラスト御指令有之爾来右ニ照シ
處置致シ来候處^{カクサイ}容^{サクネン}歳日誌第二百十一號秋田
縣ヨリ士族逃亡シ二年以外ニ至リ漂浪中他
管ニ於テ別罪ヲ犯ス者處分伺ニ二罪俱發ヲ
以テ一ノ重キニ依テ科スト御指令相見へ上
文當廳へノ御指令トハ稍^{オトシ}抵觸スル哉ニ相覺
申候右ハ何レヲ援引致シ可然哉

指令

士族逃亡二年ヲ過キ罪ヲ犯ス者ハ二罪俱發ノ限ニアラスト及指令置候處更ニ秋田縣へ指令ノ通議定候條自今右指令ヲ援引シ處分可致事

第九十四條 明治八年三月四日指令同年二月

四日山形縣伺

姦通ト和誘トノ別何レノ項ヲ以テ分界ヲ相立テ宜敷候裁之ヲ支那律ニ照セハ男女情願和同シテ私ニ姦スルヲ和姦ト謂ヒ姦夫姦婦ヲ刀誘シテ引テ別所ニ至リ通姦和同スルヲ

刀姦ト謂フ婦人姦ニ因テ姦夫ニ拐去サレル者モ和誘ニ依ル若シ依テ改嫁スル者ハ妻妾夫ニ背キ在逃因テ改嫁スルノ律ヲ照スト見ハタリ今茲ニ一人アリ商業ノ爲遠方ニ遊フ數月ナリ其妻同村ノ某氏ト姦通セリ遂ニ姦夫ニ拐去セラレ公然ト改嫁ノ式ヲ行フ然ルト雖モ戸籍ハ未タ本夫ノ摸タリ此ノ如キモノハ和誘ト看做シ可然裁改定律中ニ和誘ノ條有之候ヘモ姦通ト和誘トノ別換然氷釋仕兼候間奉伺候也

指令

畧誘和誘ハ姦ノ為メノミニアラス男女ヲ分
タス利ノ為メニスル者及ヒ私ノ為メニスル
者等各種アリ自カラ姦ト別ナリ本文ノ如キ
ハ二罪俱發一ノ和誘ノ重キヲ以テ論ス

第九十五條

明治八年三月十七日指令同年二
月十二日白川縣伺

御省日誌明治七年第百五十號敦賀縣伺前畧
處刑濟ノ者送致中途ニアリ云々捧鎖二日ニ
科スル例ヲ改メ違式輕ヲ以テ論シ實斷スト

有之ニ付假令ハ窃盜罪ノ者處刑後送籍中逃
走ノ上再窃盜ヲ犯ス如キハ本刑ノ上ニ送致
中逃走ノ罪違式輕懲役十日ヲ加役シ可然哉
ニ二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ窃盜罪ヲ科スト
御指令有之然レハ無籍無産ニシテ投産場ニ
在リ逃走シ外ニ在テ窃盜ヲ犯ノ者モ亦右ニ
照シ二罪俱發ヲ以テ論シ一ノ窃盜罪ヲ科ス
ルハ勿論ノ儀ト存候處是亦御省日誌明治六
年後第三十號京都裁判所伺ニ無産ノ者生業
又ハ教戒ノ為メ懲役場ニ役使スル者逃走シ

外ニ在テ罪ヲ犯ス者ハ捧鎖一日仍ホ犯ス所ノ罪ヲ科スト相見ヘ右ハ明治七年御省第十
三號御布達以前ノ御指令ニ付御取消ノ儀ニ可有之哉

指令

二罪俱發ヲ以テ論ス

第九十六條 明治八年三月十七日指令同年二

月二十日白川縣伺

御省日誌明治六年後第三十九號東京裁判所
伺御指令ニ脱籍逃亡二年ヲ過ル者ハ收_{ニシテ}録_{シテ}ノ

ロシヤキヤン

上家屬ヲ民籍ヘ編入ス故ニ二年外又別罪ヲ犯ス者ハ平民ト同ク處分スヘシニ罪俱發ノ限ニアラスト之レアリ又七年第二百十一號秋田縣伺士族ニシテ逃亡シ他管ニ在テ許多ノ星霜ヲ重ルニ當時藩制中ニ係ルヲ以テ該犯ノ審糺ヲ待タス已ニ除族セラル、者二年以外ニ至リ漂浪中他管ニ於テ仍ホ別罪ヲ犯シ捕ニ就ク時ハ二罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重ニ從ヒ科スヘキ裁將タ已ニ除族セラル、ヲ以テ逃亡ノ罪ヲ論セス平民ト看做シ當犯ヲ

科シ可然哉ニ二罪俱發ヲ以テ一ノ重キニ依
テ科スト有之御指令兩岐ニ出テ何レニ從ヒ
可然哉

指令

秋田縣指令ノ通心得ヘシ 但シ第一條東京

裁判所指令ハ改正ス 六年第七十号
二十丁見合セ

第九十七條 明治八年三月二十八日指令同年

三月十五日敦賀縣伺

爰ニ甲アリ曾テ乙ノ實印ヲ竊取シ以テ乙ノ
借金證書ヲ詐為シ期限淹滯シ官ニ告訴ス因

テ乙ヲ喚問ヨビダススルニ曾テ金ヲ借タルコト無ク
又證書ヲ與ヘタルコトモ無ク且ツ實印ハ紛
失セシト答フ審判中事發覺スルトキハ甲ハ
改定律例第百二十五條私印ヲ盜ミ及ヒ第二
百四十六條私ノ文書ヲ詐為スル不應為ノ犯
罪ナルヲ以テ名例律二罪俱發例ニ依リ盜罪
ヲ重トナシ科斷ス可キ處是等ハ律例第二百
四十七條告上訴不以實ヲ以テ論シ重ト為シ
科斷スヘキ哉

指令

本文三罪中一ノ重キヲ以テ論ス

第九十八條 明治八年四月十八日指令同年三

月三十日岐阜縣伺

窃盜准盜ノ賊並發スル者ニ罪俱發ノ例ニ在
ラス併賊罪ヲ論ス云々ト客歲御省日誌第二
十三號山口縣伺御指令ニ相見候處右准盜ハ
賊盜律中ノ者ニ限リ候哉他律ニ散見スル棄
毀器物稼穡等ノ賊ノ如キ同ク併賊致シ候テ
ハ穩當ヲ缺候様存候如何相心得可然哉

指令

賊盜律中ノ准盜ニ限ル可シ

第九十九條 明治八年四月二十九日指令同年

三月三十一日福島縣伺

凡過失殺傷收贖ハ殺傷セラレ、ノ家ニ給付
シ埋葬及ヒ醫藥ノ資ト為スト之アリ若シ其
死屍ヲ他所ニ移シ及水中ニ棄ル等ニ罪俱發
スル片ハ例第七十四條實斷收贖並發スル者
ノ例ニ據テ擬シ難シ仍ホ收贖本法ヲ盡シ死
屍ヲ移シ水中ニ棄ル等ハ移地界内死屍本律
ニ據テ各別ニ處斷シ可然哉

指令

過失殺傷ノ收贖ト他ノ犯罪ト俱ニ發スレハ
收贖ノ本法ヲ盡シ其犯罪ハ適律ニ處ス本文
人ヲ過失殺シ因テ死屍ヲ水中ニ棄ル者情狀
大ニ重シ移地界内死屍律ニ科シ難シ犯者ア
ラハ口供ヲ以テ伺出ツ可シ

第百條 明治八年五月四日指令同年三月三十

日濱田縣伺

人ノ本籍ヲ脱シ逃亡スルヲ知テ阻當ヲ行ハ
ス却テ餉糧ヲ給與シ仍ホ逃亡人曾テ該犯ニ

恩義ヲ受クルノ事アリテ其謝恩ノ為メ私擅
ニ父兄ノ財物ヲ取出シテ餽贈スルヲ情ヲ知
テ金三圓ヲ受クル者其阻當セサルノ罪ハ違
式輕重ニ擬シ受贓罪ハ坐贓ヲ以テ論シ二罪
俱發一ニ從テ科シ其贓ハ已費ニ係ルモ追徵
シテ本主ニ還付シ可然哉

指令

逃亡スルヲ知テ阻止セサルハ其時ノ景況ニ
因リ違式或ハ呵責ニ處ス擅用ノ情ヲ知テ貫
受ル者及ヒ贓ノ追給ハ伺ノ通

第一百一條 明治八年十二月四日指令同年十一月十八日東京上等裁判所伺

窃盜再犯滿刑ノ後又窃盜賊五圓ノ罪ト不持
兇器強盜賊十五圓ノ罪ト並發スルハ再犯
加等罪例ニ比擬シ強盜罪ニ一等ヲ加ヘ懲役
十年仍ホ二罪俱發條ニ照シ強盜賊ヲ窃盜三
犯ノ賊ニ併セ五十圓以下懲役十年罪等ンキ
ニ付一ノ窃盜三犯ニ由リ處斷スヘキ者ト存
候所明治六年七月東京裁判所ヨリ初犯再犯
窃盜ニシテ三犯不持兇器強盜ナル者本條無

之候得共懲役終身ニ被處儀ニ有之候哉ノ伺
ヘ伺ノ通ト御指令有之同年十二月二十日和
歌山縣伺ノ御指令ニ其初犯再犯窃盜ナル者
ト雖モ三犯強盜ナレハ強盜再犯ヲ以テ論
ト有之ニ付已ニ是迄右ニ比照シ批可致シ候
儀モ有之候得共尚熟考致シ候ニ初犯再犯ノ
窃盜ヲ合セテ強盜初犯ト算スル儀穩當ナラ
ス候右ハ如何ノ律意ニ候哉且ツ前文ノ如キ
窃盜三犯ト不持兇器強盜ト並發スルハ一ノ
重ニ從ヒ處斷スヘキモ窃盜再犯ノ後強盜ヲ

犯スノ正文無之旁早々御詮議有之度今後御指令有之候迄處斷差扣へ此段相伺候也

指令

強盜再犯ヲ以テ論シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘシ

第一百二條

明治八年十二月四日指令同年十一

月八日東京上等裁判所伺

違式註違條例犯罪ノ者ハ警視廳ニ於テ處斷致候處假令ハ飲酒酣醉ノ上路上ニ小便シ或ハ通行人ノ自由ヲ妨クルニ付巡行ノ巡查拘

引セントスルヲ拒ミ却テ暴言ヲ吐キ又ハ巡查ヲ打擲シ終ニ拘引サレ警視廳ニ於テ違式註違犯罪ノ糾問スルニ曾テ右等粗暴ノ所業ニ及ヒ候儀無之旨強陳シ招承ニ服セサルヲ以テ其儘當裁判所へ送致相成依テ審問ニ及フ處果シテ犯状明白ニシテ毫モ疑フナク終ニ招承ニ服ス就テハ素ヨリ違式註違條例犯罪ト本律ニ擬ス可キモノトハ二罪俱發重フ以テ論スル限ニ非サルヲ以テ拒捕ノ罪ハ本律ニ擬シ仍ホ當裁判所ニ於テ違式註違ノ罪

ヲモ問ト斷決致シ可然儀トハ存候得共為念
相伺候也

指令

伺ノ通

第百三條 明治八年十二月十七日指令同年五

月十四日名東縣伺

士族罪ヲ犯シ禁獄八十日處刑中潜出外ニア
ツテ又竊盜懲役六十日ノ罪ヲ犯シ監倉ニ在
ツテ逃走スルモノヲ改定律例第三百七條ニ
依リ懲役七十日贖罪スルヲ聽シ仍ホ新ニ

原限ヲ科スモノト竊盜律ニ依リ懲役六十日
脱監スルヲ以テ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役八十
日破廉恥ヲ以テ論シ除旗ニ止ルモノト二罪
俱發トナシ一ノ重キ除旗ニ止メ可然哉

指令

伺ノ通

第百四條 明治八年十月五日指令同年九月二

十五日伺書

從來法律上二罪俱發以重論諸罰則ニ在テハ
往々一罪コトニ處分相成居候處令般讒謗律

並新聞紙條例御頒布有之依テハ右ニ付二罪俱發シ若クハ一罪先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發スルカ如キハ素ヨリ律例ニ據リニ罪俱發ヲ以テ處分ニ可及哉劉底刑法ハ同一ニ歸セス候テハ不都合ニ有之右等ハ無論律條ニ照准スヘキ者ト存候ヘ共爲念此段相伺候至急何分ノ御指揮有之度候也

御指令

伺入通

第百五條 明治九年一月十四日指令同八年十

二月十日和歌山縣伺

當縣第三大區三小區那賀郡上田井村赤井伊七母登美ハ七十年以上ニシテ墮胎施術ノ罪ヲ以テ本年七月七日十月十日兩度懲役百日ノ收贖ニ處斷致ス所十月十日處斷スル罪ハ全ク七月七日處斷スル以前ノ犯ナルヲ發露ス右ハ十月十日處斷スル時ニ罪俱發律ニ照依シ餘罪後ニ發テ等キヲ以テ其罪ヲ論セム然ヘキヲ十月十日裁判官吏之ヲ審糺スル時罪囚前罪ヲ包藏スルヲ以テ故ラニ處斷ヲ受

ク者ニシテ固ヨリ裁判官吏ノ錯誤ト謂ノ可
カラス果シテ如此者ハ更ニ改正シテ贖金ヲ
還付ス可キ乎原ト罪囚ノ前罪ヲ包裁スルヨ
リ起ルヲ以テ別段改正スルニ及ハス可然裁
○前條若シ改正スヘクハ御省へ進達相成
ル十月分贖金月表收贖ノ部ニ已ニ該犯贖金
ヲ記載シ差出シ置候廉御取消被下度候也

指令

更ニ改正シテ贖金ヲ還付スヘシ 但十月分
月表ノ儀ハ調理ノ上更ニ可差出事

第百六條

明治九年二月二十九日指令同年二
月十四日東京裁判所伺

第一 讒謗律新聞條例ヲ犯ス者ニ罪俱發ス
ルトキハ一ノ重ニ依リ處分スヘキ旨本省日
誌中ニモ相見候處若シ該律例ト常例トヲ並
犯ス者ハ如何處分ス可キ乎該律例ハ常律ト
同例ニ看ル可キ者ナレハ二罪俱發ヲ以テ論
スル言ヲ待タスト雖モ警ハ讒謗律ニ依リ禁
獄一年罰金百圓ニ該ル者士族ニソ一ノ破廉恥
甚百以下ノ罪並發スルキハ唯除旗ニ止ム

可キ欵又ハ禁獄一年罰金百圓ニ該ル者平民ニシテ他罪ヲ犯シ輕キトキハ除棄^{シヨキ}ス可キ欵或ハ右ニ類スル者各自ニ科スルトセハ禁獄三年ト懲役五年ノ罪俱發スル如キ者アラハ先ツ懲役限畢リテ禁獄ヲ科スル歟

第二 上文ノ如ク二罪俱發ヲ以テ論スルナレハ罰金ノミ科スルハ常律トノ權衡如何可心得乎譬ハ罰金百圓ハ懲役何日ニ比較スヘキ欵

指令

第一 讒謗律新聞條例ト常律ト並發スル片ハ各自ニ科ス先ツ懲役ニ服シ了テ禁獄ニ就カシムヘシ

第二 第一指令ニ依テ心得ヘシ

第七條 明治九年三月二十二日指令同年二月二日愛知縣伺

士族ニシテ二罪以上ヲ犯シ其一罪ハ閏刑ニ該リ其一ハ破廉恥甚ノ百日以下ニ係ル而シテ該犯閏刑ノ一罪先ニ發シ審問ヲ承ルノ際其破廉恥甚ノ一罪包藏シ禁獄十年以下ノ論

決ヲ經テ一二年ヲ經過セシ後破廉恥甚ニ係
ル百日以下ノ一罪發覺セハ改定律例第七十
五條ノ權衡ニ依リ既ニ經過セシ禁獄ノ日數
ヲ問ハス更ニ後發ノ破廉恥甚ヲ以テ論シ除
族ニ止ムヘク哉

指令

伺ノ通

第百八條 明治九年五月四日指令同年四月一

日飾磨縣伺

本省日誌本年第二號小田縣伺第四條賭博再

犯ノキ初犯ヲ押包ニ初犯ヲ以テ受決ヲ經三
犯ノ節發露スル者ノ御指令ニ藏匿不實ノ罪
ハ更ニ論スルニ及ハスト有之凡百ノ罪犯々
所若クハ前科ヲ包藏シ規避ヲ圖ルハ素ヨリ
彼レノ常情トモ可申儀ニ付更ニ右不實ノ罪
ヲ論スルニ及ハスト雖モ初メ犯數ヲ包藏ス
ルニ付テハ加等十日ヲ規避スルヲ以テ三犯
ノ時發覺スレハ更ニ規避スル加等ノ日數ヲ
科セサルヲ得ス譬ハ竊盜再犯ノキ前科ヲ押
穂シ初犯ノ刑ヲ受ル者他日發覺スレハ新ニ

加等日數ヲ全科スルカ如シ元來賭博ノ現行
犯ノミヲ罪スル律ノ的旨トスル所以ノモノ
ハ指舉誣陷ノ弊害ヲ防クニ出ツルナル可シ
其犯數包藏ノ者他日發覺ノ時ニ就キ新ニ加
等日數ヲ科スルモ別ニ右等ノ弊アルニ非サ
レハ包藏ノ前科何レノ日ニ發スルモ加等ノ
日數ハ放免セサル儀ト相心得可然哉

指令

小田縣ノ指令ハ藏匿シテ實ヲ告ケザル罪ハ
不問ニ置ト雖モ加等ノ罪發覺スルトキ加等

ノ日數ヲ科スルハ勿論ノ儀ト心得ヘシ

○例第七十條

第百九條 明治八年三月二十日指令同年二月

二十日筑摩縣伺

凡罪ヲ犯シ實斷贖罪並發シテ未タ論決セサ
ル者ハ律例正條アリト雖モ若シ失火過誤失
錯ノ罪ヲ犯シ己ニ懲役二十日贖罪ニ處スル
後窃盜五十日ノ犯罪發覺スル片ハ先ニ處決
スル二十日ヲ扣除シ餘ル懲役三十日ニ處斷
シ可然哉

加等日數ヲ全科スルカ如シ元來賭博ノ現行
 犯ノミヲ罪スル律ノ的旨トスル所以ノモノ
 ハ指舉誣陷ノ弊害ヲ防クニ出ツルナル可シ
 其犯數包藏ノ者他日發覺ノ時ニ就キ新ニ加
 等日數ヲ科スルモ別ニ右等ノ弊アルニ非サ
 レハ包藏ノ前科何レノ日ニ發スルモ加等ノ
 日數ハ放免セサル儀ト相心得可然哉

指令

小田縣ノ指令ハ藏匿シテ實ヲ告ケザル罪ハ
 不問ニ置ト雖モ加等ノ罪發覺スルトキ加等

ノ日數ヲ科スルハ勿論ノ儀ト心得ヘシ

○例第七十條

第百九條 明治八年三月二十日指令同年二月

二十日筑摩縣伺

凡罪ヲ犯シ實斷贖罪並發シテ未夕論決セサ
 ル者ハ律例正條アリト雖モ若シ失火過誤失
 錯ノ罪ヲ犯シ己ニ懲役二十日贖罪ニ處スル
 後竊盜五十日ノ犯罪發覺スル片ハ先ニ處決
 スル二十日ヲ扣除シ餘ル懲役三十日ニ處斷
 シ可然哉

前條ノ如キ贖罪ノ罪重ク後發實斷ノ罪輕ク
若クハ等シキハ一二從テ論折シ可然哉

指令

兩條共同ノ通

第一百十條 明治九年二月二十五日指令同年二

月二日濱田縣伺

老小癡疾婦女ノ犯罪ハ名例中特別ノ律條ヲ
設ケラレ老小癡疾ハ死罪婦女ハ不孝姦盜人
命放火等ヲ除クノ外ハ一般ニ收贖スルヲ
聽サル是老小癡疾婦女ヲ哀矜スル旨意ニ有

之所條例第七十條ニ輕キ實斷ト重キ贖罪ト
並發スル者ハ重キ贖罪ニ從ヒ同七十四條ニ
ハ實斷收贖罪並發スル者ハ收贖折減法ニ照
シ重キニ從ヒ實斷ニ處スト有之然レハ則チ
常人ニ在テハ其罪ヲ贖ヒ實斷ヲ免カル、
ヲ得ルモ老小癡疾婦女等ノ哀矜スヘキ者ハ
却テ其罪ヲ贖フヲ得スシテ實斷ニ處セラ
ル何ソ常人ノ幸ニシテ老小等ノ不幸ナルヤ
彼是ノ權衡甚タ均平ナラサルヲ覺フ尤七十
四條ニ收贖折減法ニ照シ云々ト謂フニ依テ

按スレハ素折減法ハ老小婦女等收贖ノ罪ヲ
 犯シ無力ニシテ贖ヲ能ハサル者ノ為メニ設
 クル者ナルヲ以テ該條モ猶ホ無力者ノ為メ
 ニ立ル者ノ如シト雖モ條中其明文ナク且ツ
 老小癡疾婦女無力ニシテ贖ヲ能ハサル者ヲ
 處斷スルハ名例第三十一條第三十九條ヲ第
 七十條ニ參照シテ自ラ明了ナリ必スシモ第
 七十四條ヲ立ルニ及ハサル様ニ相見ヘ疑義
 決シ兼候
 指令

實斷ト贖罪ハ權衡相若ケリ實斷ト收贖ハ大
 ニ差違アリ故ニ折減法ニ照シ輕重權衡ヲ比
 較シ收贖重クシテ本罪贖ヲ能ハサル者ハ
 折減シテ實斷ス

○例第七十三條

第百十一條 明治八年一月二十八日指令同七
 年十二月二十五日水澤縣伺
 明治六年司法省日誌第五十七號白川縣ヨリ
 肥後國下益城郡新田村喜悅七歳竊盜賊四十
 圓余已ニ杖一百處斷ヲ經ルノ後尚不盡ノ賊

四十圓余覺發スル伺ノ御指令ニ例第七十三條ニ依リ併賊シテ九十圓余首從ノ賊並發スルニ付一等ヲ減シ已ニ決スル杖一百ヲ扣除シ剩ル日數ヲ科シ懲役二年ト八十二日トアリ本年日誌第二號千葉裁判所伺中第四條竊盜六十圓以上ナルヲ五十圓ト供認シ已ニ懲役一年論決ヲ經タル後又竊盜再犯一圓以下ノ罪ヲ犯シ不盡ノ賊並發スレハ更ニ半年六十日ニ科シ又其賊百二十圓以上ナルヲ只一圓以上ノ罪ノミヲ供認シ懲役六十日處決ノ

後不盡ノ賊發覺スレハ更ニ懲役九年ト三百五日ニ科ス可キヤノ御指令ニ伺ノ通トアリ同第五條前條後犯ノ罪准盜或ハ逃亡ノ類ニ係レハ二罪俱發以重論例ニ依リ科斷スヘキヤノ御指令ニ云々本文ノ如キハ前罪論決後ノ犯罪ニ係ル前犯ノ不盡賊ハ例第七十三條ニ依テ處分シ後犯ノ罪ハ仍ホ律ニ依テ科斷スヘシトアリ右ハ何レモ同一ノ御指令ニ御坐候處同號京都裁判所ヨリ同斷伺ノ御指令ニハ竊盜再犯ノ時賊金ノ數ヲ包藏シ三犯ノ

キ審糺ニ因テ再犯包藏ノ賊ヲ申供スレハ二
 罪俱發律ニ依三犯ノ賊ヲ以テ再犯包藏ノ賊
 ニ併セ重ニ從ヒ若シ併セテ仍ホ輕ク若クハ
 等シキハ一ノ重ヲ以テ論ス云々トアリ右ハ
 何レヲ正トシ援引ス可キヤ甚々疑念ヲ生シ
 候然ルニ例第七十三條ノ意義篤ト勘味候ハ
 ハ論決ノ時包藏セル賊後日發覺スレハ其以
 前決スル節ノ賊ニ併セ輕重ヲ計リ加否ノ別
 アルノミニテ後犯ノ罪ニ關スル譯ニ無之即
 チ千葉裁判所伺御指令ノ通り後犯ノ罪ハ更

ニ科斷スル方允當ナル哉ニ考ラレ候右ハ如
 何相心得可然哉

指令

千葉裁判所へ指令ノ通心得ヘシ 但シ京都
 裁判所へノ指令ハ竊盜再犯ノ時賊金ノ數ヲ
 包藏シ三犯ノ時審糺ニ因テ再犯包藏ノ賊ヲ
 申供スル者ヲ謂フ初犯包藏ノ賊再犯ノ時發
 覺スル者ト同シカラス故ニ二罪俱發律ニ依
 リ一ノ重キニ從テ罪ヲ科ス

第百十二條 明治九年五月十七日指令同年二

月四日熊谷裁判所

律例第七十三條已ニ論決ヲ經ルトハ犯罪ヲ
首シ免罪トナル如キモ論決ヲ經ル儀ト相心
得可然哉

指令

伺ノ通

○犯罪共逃

第一百十三條 明治九年二月二十五日指令同年
二月十七日東京上等裁判所
客月十八日附ヲ以テ盜賊計算ノ儀ニ付相伺

候處

本年第十一号二丁見合

強盜罪ノ重キ云々事主夫ヲ

所ノ財ハ即チ本犯盜ム所ノ財ナルヲ明白ナ

ルニ於テハ律ノ通科断スヘシト御指令相成

然ルニ右伺ノ趣意ハ賊証明白ナル者ヲ云ニ

非ス甲乙ノ二盜共ニ室ニ入り甲ハ既ニ財ヲ

奪^{ダク}掠^リシ乙ハ未タ財ヲ搜セス事主ニ覺^{サト}逐セラ

レ共ニ逃ル乃チ乙ヲ獲シ之ヲ^キ糾^ツ訊スルニ乙

云共ニ戶外へ逃走スルノ際甲ノ袂ヲ負擔シ

去ルヲ見レ氏物品ノ何為ルヲ知ラズト茲ニ

於テ事主ノ失單ニ照シ計賊セントスルモ甲

ヲ捕獲鞫問スルニ非レハ失フ所ノ財ハ該犯
 等ノ盜ム所ノ財ナルヲ確知スルヲ得ス
 且ツ該犯ノ肯セルヲ保スルヲ能ハス何トナ
 レハ曾テ經驗スル所ヲ稽スルニ事主ノ失
 單タルヤ大概記臆スル所ヲ開申スルモノニ
 シテ對審ノ日ニ當テ却テ盜犯ノ供ニ實ヲ得
 ルト間々之アレバナリ如斯場合ニ至テハ口
 供甘結ニ論ナク事主ノ失單ヲ允トスヘキ歟
 果シテ然ラハ改定律例第三百十八條ニ違フ
 將夕財ヲ得サル者トスル歟果シテ然ラハ祇

ヲ負擔シ去ルヲ見ルトアレハ多少賊物アル
 ヲ知ル然則其同夥ヲシテ未得財者トナス
 ヲ得ス甲犯在逃スルカ為メニ賊數明白ナラ
 サルト如是前伺御指令ハ明白ナルモノニ就
 テノ儀ト被存候

指令

乙甲ノ祇ヲ負擔シ去ルヲ見ルトアレハ乙ハ
 賊ノ配介ヲ得スト雖モ財ヲ得ル者ト云フヘ
 シ最モ事主ノ失單ノミニテ賊數ノ多寡ヲ審
 ニスル能ハサル片ハ其賊ノ最少ノ數ヲ以テ

律ニ照シテ科斷スヘシ

○同僚犯公罪

第百十四條 明治八年二月四日指令同年一月

十四日滋賀縣伺

同僚犯公罪條原設四等官ノ内缺員アルモ亦
四等ニ依リ^テ遞減^シテ罪ヲ科ストアリ舊藩官
吏遞減法モ知事ヲ長官トシ正權大參事ヲ次
官トシ正權少參事ヲ判官トシ屬ヲ主典トナ
シ遞減スルノ處辛未七月十四日令般藩ヲ廢
シ縣ヲ被置候付テハ追テ御沙汰候迄大參事

以下是迄通事務取扱可致事ト御沙汰アルノ
後ハ尋常知事ノ缺員トハ異ナルニ依リ正權
大參事ヲ以テ長官トナシ屬ニ至ル迄ヲ三等
ニ相分チ候テ可然哉又知事ハ既ニ免セラレ
尚參事ノ名義ヲ存セラル、上ハ參事ノ上知
事アルノ御規則ナレハ知事ハ免セララル、ト
雖モ現設四等官ノ内缺員アル者ト見做シ前
顯缺員アルモ亦四等ニ依リ遞減シテ罪ヲ科
スト云フニ依リ四等ニ分チ罪ヲ科シ可然哉

指令

四等ニ分テ罪ヲ科ス可シ

○共犯罪分首從

第一百十五條 明治八年一月九日指令同七年十

一月十二日長崎裁判所伺

凡律例ニ數人罪ヲ犯カスヤ其首罪重ク從罪
輕ク況ンヤ其人ニ因リ連累シテ罪ニ致ス等
ノ如キニ至リテハ其罪重シト雖モ必ス本犯
ノ罪ニ起ルナキト各條ニ舉テ明文アリ然ル
ニ畧賣人條ニ其情ヲ知テ買フ者ハ賣ル者ニ
一等ヲ減シ牙保ハ又一等ヲ減ストアリ又盜

賊窩主條ニ畧賣和誘ノ賊タルヲ知テ受ル者

ハ各賊ニ計ヘ窃盜ニ准シ從ト為シテ論スト

アリ右ハ畧賣ノ牙保ヲ為ス者若シ其賊ヲ受

ル片ハ尚ホ窩主條ニ照シ其賊ニ計ヘ重キニ

從テ論スヘキ所改定律例第四百十七條子孫

ヲ畧賣シテ娼妓ト為スノ牙保其賊十圓以上

ヲ受ル者等ノ如キハ其畧賣スル本犯ハ律ニ

照シ懲役五十日其牙保ハ二等ヲ減シ懲役三

十日ノ處賊金十圓以上窃盜ニ准シ從ト為シ

テ論シ懲役六十日ニ處スル如キニ至テハ其

罪却テ本犯ノ罪ヨリ重ク本末輕重ノ權衡稍
水平ナラサルヲ覺フ如何相心得可然哉

指令

共犯罪及ヒ連累ハ首犯ノ罪ヨリ重カラサル
ハ律ノ体例ト雖モ名例共犯罪分首從條四項
ノ如ク首從ノ本罪各別ナル者ハ從犯反テ首
犯ヨリ重シトス本文ノ如キ畧賣和誘ノ賊ヲ
受ル者ハ共犯ノ罪ニアラス各自ノ犯罪ナル
ヲ以テ首從ノ罪輕重比較スヘキニ非ラス各
律ニ依テ區處スヘシ

第一百十六條

明治八年三月廿八日指令同年三月若松縣同

一家人六七名爐中ニ焚火致シ樂坐暖ヲ取リ
深更ニ及ンテ一同起テ寢室ニ入り跡ニテ右
爐ヨリ烈火致シ一家燒亡スルアリ元來失火
ハ火ヲ失スル人ヲ坐スト律ニ明文アリト雖
モ右ノ如ク火ヲ失スル者何人ナルヤ判然不
致キハ平素家長ノ不取締ヨリ起ルヲ以テ名
例律共犯罪分首從條第二項ニ依リ家長ヲ罪
ニ坐シ可然哉

指令

本文ノ如キハ平素家長ノ不取締ヨリ起ルヲ以テ男女ヲ分タス家長ヲ罪ニ坐ス

第一百十七條

明治八年四月三十日指令同年三月三十一日水澤縣伺

第一 名例律一家人共ニ罪ヲ犯セハ止夕尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セス云々其盜罪及ヒ枉法不枉法若クハ鬪毆殺傷等父子同ク犯スハ並ニ犯人首從ノ法ニ依ルト有之然ハ父子盜罪ヲ犯ス父首夕リ子從タレハ尋常首從ノ法ニ依リ更ニ疑ヲ容レスト雖モ子首夕リ父從夕

ル者ハ仍ホ父ヲ從トナシ子ヲ首トナスヘキ哉將夕第一項ニ止夕尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セストアルヲ以テ觀レハ子首夕ルモ從トナシ父從タルモ首ヲ以テ論シ可然哉

第二 一家共犯ノ時尊長年八十以上及ヒ篤疾アルハ其次ノ尊長ヲ坐ストアルハ其尊長病若クハ行衛知レサル後發覺スレハ亦次ノ尊長ヲ坐シ可然哉

第三 盜罪ニ係ル一家共犯ニシテ尊長病没ノ後發覺スレハ其次ノ尊長ヲ以テ首トナシ

テ論ニ可然哉

指令

- 第一 父ヲ從ト為シ子ヲ首ト為シテ論ス
- 第二 尊長病没スレハ伺ノ通り其行衛知レサル者ハ探偵追捕シテ罪ヲ科ス其次ノ尊長ヲ坐スルノ限ニアラス
- 第三 病没スル尊長首犯ナレハ其次ノ尊長ハ從タルノ本罪ヲ科ス

第百十八條

明治八年三月二日指令同年二月七日静岡縣伺

附籍者戸主ト共ニ罪ヲ犯ス者アリ其附籍者共居同爨ナラハ一家共犯ヲ以テ論シ若同居スト雖モ爨ヲ異ニシ及ヒ各居ニ係ラハ仍ホ首從ノ法ニ仍テ可然哉

指令

五等親中ノ親屬ニシテ共居同爨ニ係ル者ハ一家共犯ヲ以テ論ス

第百十九條

明治八年四月三十日指令同年三月小田縣伺

賭博ノ罪犯ヲ一家共犯再度ニ及フト雖モ仍

ホ一家共犯ノ例ニ依ルヘキ儀ニ候哉

指令

伺ノ通

第二百十條 明治九年一月二十四日指令同八

年五月二日山形縣伺

共犯罪分首從律第二項若シ一家人共ニ罪ヲ
犯セハ止夕尊長ヲ坐シ卑幼ハ論セスト有之
候所今叔姪一家ニ同居シテ戸主ハ姪ナルニ
二人同罪ヲ犯セハ止夕叔父ヲ坐シ候哉又ハ
專制ノ權戸主ニ在ヲ以テ止夕姪ヲ坐シ候哉

同上ノ際ニ當リ姪ノ齡遙カニ叔父ヨリ長ス
ルモ尊族ナルヲ以テ止夕叔父ヲ坐シ候哉

指令

姪戸主タリモ卑幼ニ屬スレハ尊長ノ叔父ヲ
罪ニ坐シ叔父幼少ナルハ姪卑族タルモ年
長スルヲ以テ姪ヲ罪ニ坐スヘシ 但シ叔姪
並ニ年十五以上ナレハ年少ノ尊族ヲ坐ス

第二百十一條 明治九年二月三日指令同八年

十一月十八日京都裁判所伺

讒毀誹謗スル者若シ一家人ノ共犯ニ係ルト

雖モ各自ニ罪ヲ科スヘキ哉將タ共犯ノ例ニ依ルヘキ哉

指令

一家共犯例ニ依リ處分スヘシ

○親屬相為容隱

第二百二十二條 明治八年四月十五日指令同年

三月二十二日福島縣伺

今爰ニ容隱ヲ聽ス可キ女婿甲ノ頼ニ依テ其弟ノ犯罪者ヲ又他ノ女婿乙ニ托シテ容隱セシムル舅丙ナル者アリ右甲ノ弟ト乙トハ

等親外ニシテ容隱ヲ聽ス可キニ非ス去ナカラ乙ニ於テ甲ノ弟ヲ容隱スルヤ原ト舅丙ノ寄托ニ據ル者ニシテ一該ニ他人ヲ容隱スルヲ以テ論擬スルハ如何ト疑ヲ生ス依之名例律親屬相為容隱條ハ右ニ記載スル親屬本人ノミニ限リ候儀ニテ縱令前文ノ如キ容隱ヲ聽サルヘキ親族ノ寄托ヲ受クルモ仍ホ凡人ヲ以テ論ス可キ儀ニ可有之哉

指令

伺ノ通

第二百二十三條

明治九年四月二十六日指令同

年二月二十三日熊谷裁判所伺

第一 母父ノ為メニ殺サレ其子私和スルト
キハ容隠ヲ許シ可然哉

第二 叔父兄ノ為メニ殺サレ其弟私和スル
トキハ容隠ヲ許サス本罪ヲ科シ可然哉

第三 兄叔父ノ為メニ殺サレ其弟私和スル
キハ容隠ヲ許シ可然哉

第四 甲兄乙兄ノ為メニ殺サレ丙弟私和ス
ルキハ容隠ヲ許サス本罪ヲ科シ可然哉

第五 乙兄甲兄ノ為メニ殺サレ丙弟私和ス
ルトキハ容隠ヲ許シ可然哉

第六 父暴逆無賴ニシテ胞弟〔叔父ヲ云フ〕ノ
婦ヲ強姦ス本夫〔叔父ヲ云フ〕撞見シ阻救セン

ト邂逅死ニ致ス其子之ヲ私和ス畢竟之ヲ官
ニ報告スレハ父ノ汚名ヲ流スヲ恥チ又匿シ
テ官ニ告ケサルハ叔父ノ為メニ盡スノ義務
アリ右等ノ如キハ強姦ノ成否ヲ問ハス無論
容隠ヲ許シ可然哉

第七 同上其若シ叔父忿激シテ父ヲ故殺ス

其子私和スルキハ強姦已ニ成ルモ容隠ヲ許
サス本罪ヲ科シ可然哉

指令

第一 伺ノ通

第二三四五 叔父兄弟ハ共ニ二等親ナレハ

尊卑ヲ分タス容隠ヲ聽ヌヘシ

第六七 所犯ノ景況ニ依ルヘシ豫メ指令ニ

及ヒ難シ

○例第八十五條

第二百二十四條 明治八年十月八日指令同年五

月十日福島縣伺

舊惡減免例ニ凡犯罪年ヲ歴テ發覺スル者ハ
並ニ舊惡ヲ以テ論シ云々有之候其發覺ト称
スルハ官其所犯ヲ覺知スル日ト相心得是迄
處斷致シ來候處昨明治七年十一月中相伺候
闘毆殺人岩代國安達郡苗代田村佐藤勘之丞
儀懲役三年相當ノ處五箇年餘ヲ經テ發覺ス
ルヲ以テ舊惡減免例ニ照シ免罪トノ御指令
ニ依リ即時決放候處該犯ノ根元初四郎ヲ毆
殺スルハ明治元年八月八日而シテ官其所犯

ヲ覺知捕縛候ハ同七年三月九日ニ之アリ右
 捕獲ノ月日ヨリ所犯ノ月日マデ遡リ算スレ
 ハ四年八月ト一日御省日誌明治七年第百
 十二號埼玉裁判所御指令ニ依リ新舊曆ノ
 日月差アルニ拘ハラヌ且ツ閏月ハ一年内ニ
 算入スニ相成口供甘結明治七年十一月十三
 日マテヲ計算スレハ五年以上ニ相成候ニ付
 甘結ノ日ヲ以テ發覺ト相心得可然哉

指令

明治元年八月罪ヲ犯シ同七年三月覺知スル

時ハ五年餘ヲ經テ發覺スル者ナリ口供甘結
 ニ至ルノ日ヲ計ヘ五箇年餘トナスニ非ス

第百二十五條 明治九年三月二十八日指令同

年三月四日和歌山縣伺

過失殺傷收贖ニ處ス可キ者其若干年ヲ經過
 スレハ舊惡減免例ニ照依シテ免減シ可然哉
 將夕過失殺傷ハ罪名ニ非ルヲ以テ幾年ヲ經
 過スト雖モ減免セサル乎

指令

舊惡減免例ニ照シ處分ス

○再犯加等罪例

第二百二十六條 明治八年一月九日指令同七年

十二月三日大坂裁判所伺

本省日誌七年第五百五十九號山口縣ヨリ窃盜
三犯懲役十年ノ囚服役中窃盜ヲ犯ス者濱田
縣伺ノ御指令ニ窃盜四犯財ヲ得ル者賊ノ多
寡ヲ論セス懲役終身ト有之儀ニ付伺ニ窃盜
賭博等ノ犯數ニ計フル罪ハ刑名宣告ノ後重
テ犯ス者再三犯ヲ以テ論ス同第二條御指令
窃盜初犯懲役十年ノ囚役限内ニアリ又窃盜

ヲ犯ス者ハ原拔滿期ノ上後犯加一季ノ日數
ヲ全科シ或ハ折半シテ加役ス改定律例第四
十三條ノ通心得ヘシト有之然ルニ同條ハ懲
役五年以上ノ囚重テ五年以上ノ罪ヲ犯ス者
ハ並ニ拘役四年ヲ加フトアリ依之看之トキ
ハ懲役限内ノ犯罪假令ハ懲役五年以上十年
ニ至ル迄ノ各罪ハ拘役四年ニ止マルト存
セラレ候處前ノ兩縣ヘノ御指令ニ依ル片ハ
假令ハ初犯窃盜懲役五年ノ囚限内重テ窃盜
五年ニ該ル罪ヲ犯ス片ハ第四十三條ニ依リ

拘役四年原犯ニ通算シ懲役九年申付ヘキ處
 限内ト雖モ已ニ刑名宣告ノ後ニ係ルヲ以テ
 右例ニ不拘原役滿期ノ上後犯加一等ノ例ニ
 依リ更ニ懲役七年可申付裁果シテ然ラハ第
 四十三條拘役四年ヲ加フトアルハ再犯加等
 スヘキ罪犯ノ除クノ外加役スルトト相心得
 可然裁

指令

總テ犯數ニ計ノル法ハ濱田山口兩縣へ指令
 ノ通心得ヘシ其裁判所伺五年以上ノ役囚限

内又罪ヲ犯シ五年以上ニ該ル者ヲ以テ山口
 縣指令三年以下ノ犯罪原役滿期ノ後折半或
 ハ全科スル者ト概論スルハ誤解ト云ハサル
 可カラス尚ホ兩縣伺面及ヒ例第四十三條對
 照参考ス可シ

第二百二十七條 明治八年一月九日指令同年十

二月十四日新瀉縣伺

爰ニ窃盜賭博ヲ犯シ追悔自首スルヲ以テ首
 免ヲ與フル所再ヒ窃盜賭博ヲ犯シ縛ニ就ク
 者ハ仍ホ再犯ヲ以テ論スヘキ裁

指令

初犯ヲ以テ論ス

第二百二十八條

明治八年二月二十四日指令同年一月十三日愛知縣伺

加等スヘキ罪囚ノ鞫問スルニ膺ツテ某舊藩ニ於テ既ニ同罪ヲ犯シ笞杖ノ斷決ヲ經ルト告ク該縣ヘ往復シテ其有無ヲ問フモ舊藩廢置合併ノ際簿記紛乱シテ明確ナラス或ハ當時全ク引繼ノ書籍之レナキハ罪犯ノ口供ニ據リ假令ヒ年月日又ハ笞杖ノ數詳カナラ

ナルモ再三犯ヲ以テ論シ可然哉

指令

伺ノ通 但シ大赦以前ナレハ犯數ニ計ヘス

第二百二十九條

明治八年三月二十八日指令同年三月二日水澤縣伺

明治六年第二百六十七號御布告再犯加等罪例條例凡監守及ヒ常人盜再犯スル者ハ窃盜ト同ク並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フト有之右ハ初犯監守及ヒ常人盜ナル者再犯モ亦監守常人盜ヲ犯ス時ノ例ニ可有之其初犯監守

ニシテ再犯常人盗ナル者若クハ初犯常人盗
 ニシテ再犯監守盗ナル者及ヒ初犯監守及ヒ
 常人盗ニシテ再犯窃盗ナル者若クハ初犯窃
 盗ニシテ再犯監守常人盗ナルハ並ニ初犯ヲ
 以テ論シ一等ヲ加ヘ可然哉
 初犯再犯監守及ヒ常人盗ニシテ三犯窃盗ナ
 ル者及ヒ初犯再犯窃盗ニシテ三犯監守常人
 盗ナル者若クハ監守常人窃盗等相交ル三犯
 ハ並ニ窃盗三犯ヲ以テ論シ可然哉
 例第四百四十三條雇人家長ノ財物ヲ盗ム者ハ

常人盗ヲ以テ論シ管守者自ラ盗ム者ハ監守
 盗ヲ以テ論スト之レアルハ再犯以上加等ノ
 儀モ総テ前二條ノ權衡ヲ以テ論シ可然哉

指令

- 第一 並ニ後犯ノ罪ニ一等ヲ加フ
- 第二 伺ノ通窃盗三犯ヲ以テ論ス若シ三犯
ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス
- 第三 伺ノ通

第三百三十條 明治八年三月三十一日指令同月
 二日水澤縣伺

司法省日誌明治七年第八十二號豐岡縣へ御
 指令ニ初犯處決ヲ經テ再ヒ同罪ヲ犯シ自首
 スル者全免シ三犯ノ片再犯ヲ以テ論ストア
 リ則罪ヲ首シ全免ヲ經ルノ後再ヒ同罪ヲ犯
 セハ最初全免ノ罪ハ犯數ニ計ヘスト雖モ其
 自首シテ全免ニ至ラス一等或ハ二等ヲ減シ
 處決ヲ受ル者再ヒ同罪ヲ犯スニ本罪加等ス
 へキ者ハ最初減等ニ處スル罪ハ無論犯數ニ
 計ヘ可然哉

指令

伺ノ通

第三百三十一條

明治八年四月十三日指令同七
 年十月十八日三重縣伺

律例凡盜ニ准シテ論スル罪ハ犯數ニ計ヘス
 トアルハ真盜罪初犯ニ在ル片ノ例ト心得候
 然ルニ其初犯准盜ヲ以テ論決ヲ經ルノ後再
 犯以上仍ホ准盜罪ニ依令ハ初犯盜田野穀麥條
 ノ然ル片ヲ犯ス者ハ都度初犯ヲ以テ論シ加等
 ヲ用ヒス候哉

指令

伺ノ通

第三百二十二條

明治八年四月十八日指令同年

三月九日青森縣伺

爰ニ賭博再犯者アリ従前癡疾ニ付前科ハ收贖シ後罪ハ律例第四十八條ニ依リ加等ノ罪ヲ宥メ本罪ヲ實斷スヘキ處追々ニシテ身體衰弱シ輕役ニモ服シ難キ者再犯者ト雖モ本罪八十日ヲ收贖セシメ可然哉將々再犯者ニ付一等ヲ加ヘ九十日ノ收贖可申哉

指令

再犯ノ九十日ヲ收贖セシム

第三百二十三條

明治八年五月二日指令同年二

月十四日滋賀縣伺

盜罪賭博等ノ再犯加等スヘキ罪ヲ犯ス者單法ヲ以テ處斷ヲ歷免役ノ後又之ヲ犯スモ犯數ニ計ヘスシテ可然哉

指令

犯數ニ計フ

第三百三十四條

明治八年十月八日指令同年五

月十三日白川縣伺

綱領賊盜律盜官私牛馬條民間ノ牛馬ヲ盗ム者ハ廐闌牧場ヲ分タス竊盜ニ准シテ論シ罪懲役十年ニ止ル是准盜罪ト雖モ再三犯スレハ竊盜ト同ク犯數ニ計ヘ其罪ヲ科ス然ル處律例御頒布後准盜罪ハ犯數ニ計ヘサル例ニ付牧場ノ牛馬ヲ盗ハ從前明治六年七月九日以前ヲ云フ今後明治六年七月十日以後ヲ云フ共犯數ニ計ヘサルハ勿論ナレ其民間廐闌ノ牛馬ヲ盗ム者ハ例第四百十條ノ通竊盜ヲ以テ論スヘキ罪ナレハ從前今後ヲ分タス

竊盜ト同ク犯數ニ數ヘ綱領ニ准盜トアルモ其准ノ一字ニ泥マス可然哉若シ然ル片ハ雇人家長ノ財物ヲ盗モ亦綱領ニ於テハ准盜ナレ氏例第四百十三條ニ右准盜ヲ改メ常人盜ヲ以テ論スト有之原トヨリ加等罪ナレハ是亦從前今後ヲ分タス竊盜ト同ク犯數ニ計ヘ譬ヘハ明治六年七月九日前家長ノ財物ヲ盗ミ初犯再犯ノ裁決ヲ經同年七月十日同罪ヲ犯セハ仍ホ竊盜三犯ヲ以テ論シ五十圓内外ヲ分チ常人盜三犯ヲ以テ論セス可然哉

指令

改定律例ノ前後ヲ論セス准盜ハ犯數ニ加ヘ
ス

第三百三十五條 明治九年一月二十二日指令同

八年五月和歌山縣伺

昨明治七年十二月大坂裁判所ヨリ甲斐國無
籍寅吉竊盜三犯ノ所再犯ノ時他管ニ於テ縛
ニ就キ前罪ヲ隱匿シ現罪決放原籍へ遞送途
中復脱走シ竊盜三犯五十圓以下ノ者相伺候
處棒鎖二日ノ上懲役十年ト御指令有之又同

年同月二十七日三潞縣ヨリ賭博竊盜三犯推
問中ノ者前度再犯ノ節初犯ト申訴リ初犯ノ
處刑ヲ受候段發露ニ及フ時再犯加等スヘキ
ノ剝罪ハ二罪俱發ト看做シ除棄可然裁更ニ
剝罪ヲ科シ後三犯ノ本罪ニ處シ可申裁ノ伺
御指令ニ伺ノ通更ニ剝罪ヲ科シ然ル後三犯
ノ本罪ニ處スト有之何ニ憑據致シ可然裁

指令

二罪俱發ヲ以テ論セス再犯ノ剝ル日數ト三
犯ノ役限ヲ合セテ科スヘシ

第三百三十六條

明治九年三月二十八日指令同年三月四日和歌山縣伺

軍人軍屬等陸軍省於テ在役中窃盜罪ヲ犯シ軍律ニ依テ處決ヲ受ル者除隊後本籍ニ在テ復窃盜罪ヲ犯セハ再犯ヲ以テ論シ加等スヘ乎其身ニ在テハ固ヨリ再ヒ國法ヲ違犯スト雖モ軍律常律其處分ヲ異ニスレハ再犯ヲ以テ論シ難キ乎

指令

再犯ヲ以テ論ス

第三百三十七條

明治九年五月二日指令同年四月五日飾磨縣伺

凡ソ犯數ニ計フル犯罪者初犯ノ時廢疾ニ付收贖スヘキヲ誤テ實斷セラレシ者再犯ノ時ハ其本罪ニ依テ收贖ヲ聽シ加等セサル儀ト可相心得哉

指令

加等ノ罪ヲ宥メ本罪ヲ實斷ス

○再犯加等罪例條例明治九年七月二十一日第四百号御布告

○凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初犯竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ並ニ竊盜三犯ヲ以テ論シ初犯監守盜再犯竊盜ニシテ三犯常人盜三百圓以上ナル者ハ常人盜ヲ以テ論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スルノ類

○再犯加等罪例増加 明治九年十月三日御布告

○凡初犯再犯各盜罪ヲ犯シ已ニ斷決ヲ經テ又盜罪ヲ犯ス者ハ其輕キ所ノ盜罪三犯ヲ以テ論ス若シ後犯ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス假令ハ初犯竊盜再犯強盜ニシテ三犯監守盜ナル者ハ竊盜三犯ヲ以テ論シ初犯竊盜ニシテ再犯三犯強盜ナル者ハ強盜再犯ヲ以テ論スルノ類

○再犯加等罪例増加 明治九年十一月八日御布告

○凡初犯竊盜ニシテ再犯監守盜若クハ常人盜ナル者及ヒ初犯監守盜ニシテ再犯常人

盜若クハ竊盜ナル者及ヒ初犯常人盜ニシテ再犯監守盜若クハ竊盜ナル者ハ並ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フ

○稱日者以十二時

第一百三十八條 明治八年十月八日指令同年五月二十四日大坂裁判所伺

本省日誌七年第七十一號兵庫裁判所伺第三條御指令ニ逃亡及ヒ舊惡減免ノ如キハ年ヲ以テ算スト有之候因テ推考致シ候ニ舊惡減免ノ如キハ年ヲ以テ算スル固ヨリ減免ヲ速

ニスルノ主意ニテ寛恤ノ一端ト存シ候へ共逃亡ニ至テ年ヲ以テ算スル片ハ犯人該年在逃ノ早遲ニ依テ大ニ幸アリ不幸アリ何トナレハ六年十二月ニ在逃シ八年一月ニ至テ收縛セラル、者月ヲ以テ算スル片ハ十四ヶ月ト雖モ年ヲ以テ算スレハ二年以外也又五年十二月ニ在逃シ七年十一月ニ至テ收縛セラレ、者ハ三年ニ涉ルト雖モ月ヲ以テ算スレハ二十四ヶ月ニシテ二年以内ナリ右ノ如ク年ヲ以テ算スルト月ヲ以テ算スルト自ラ差

異ヨ生シ候元來逃亡二年以外ニ及フ者ハ復
歸及ヒ自首スルト雖モ減免ヲ與ヘス贖罪ニ
處スル儀ニ候ヘハ算スルニ年ヲ以テセス月
ヲ以テセハ寬ニシテ且ツ稱日者以二十四時
條例ノ意ニモ相協ヒ候哉ト存候ニ付此段相
伺候也

指令

年ヲ以テ算スルトハ改定律第九十一條ヲ見
合セ三百六十五日ト心得ヘシ十四ヶ月ヲ以
テ二年以外ト云フヲ得ス

○例第九十四條

第三百二十九條 明治八年四月二十九日指令同

月十三日山梨縣伺

御省日誌本年第三十八號東京府ヨリ懲役一
年半ノ日數計算ノ儀ニ付云々伺ノ御指令ニ
半年ノ日數ハ六年二月四十五號御布告ニ照
シテ計算スヘシト有之就テハ右御布告ニ凡
一月ト稱スル者ハ三十日ヲ以テ半年ト稱ス
ル者ハ云々ト有之候ヘハ半年ノ日數ハ月ノ
大小ニ不拘三十日ヲ以テ一ヶ月トナシ計算

シテ百八十日トシ一年ノ日數三百六十五日
合計日數五百四十五日ヲ以テ懲役一年半ノ
日數滿限ト相心得可然哉

指令

伺ノ通 但シ閏年ハ一日ヲ加算ス

○斷罪無正條

第四百十條 明治八年三月十四日指令同年二

月十九日飾磨縣伺

客歲十二月十八日御創定斷罪無正條條例中
凡罪ヲ斷スル正條アリト雖處犯情狀輕キ者

ハ仍ホ情法ヲ酌量シテ輕減スルヲ聽シテ
五等ニ過ルヲ得スト有之處右ハ賊盜其他
賊ニ計ヘ又ハ犯數ヲ以テ論スルモ同様酌量
輕減ス可キ儀ニ候哉 但士族破廉恥甚ニ係
ル犯罪ト雖モ情罪極ノテ輕キ者ハ除族ヲ以
テ論セス禁獄ニ止メ候儀ニ有之候哉

指令

伺ノ通 但書士族破廉恥甚ニ該ル犯罪ハ犯
情輕シト雖モ閏刑ニ處スルヲ聽サス

第四百十一條 明治八年十一月二十四日指令

同年同月十日神奈川裁判所伺
本年八月十五日東京裁判所伺第五條ノ御指
令ニ其刑名應死ニシテ其情酌量輕減スヘキ
見込アリト雖モ巡回判事ノ至ルヲ待ツヘシ
ト有之ハ蓋シ其事情酌量ハ彼ノ五等減ヲ判
事ノ見込ニ委セラレタルカ如キ類ノト云
フ故將々律例已ニ加減ノ明條アルモ尚ホ巡
回判事ヲ俟ツモノ乎曰ク其加減ノ明條ヲ一
例セハ今茲ニ雇人其管守スル所ノ家長ノ財
物二百五十圓ヲ盜ニ一旦逃走ニケル之後ヲ復自首

スルニ當ツテ賊百五十圓現在シ百圓ハ已ニ
費用シテ不可徵者即チ改定律例第六十四條
其追徵スル不能ノ賊ニ二等ヲ減シテ罪ヲ科
ス其餘ノ賊罪モ亦之ニ准ストアルニ仍リ監
守盜二百圓以上絞トアルモ猶右ニ因依シ其
不可徵ノ賊百圓乃チ懲役十年ニ二等ヲ減シ
懲役五年ニ該ルカ如キ之ナリ如是ハ則チ彼
ノ事情酌量五等減ヲ判事ノ意見ニ委ネラル
ハル如キモノニ非ス故ニ直ニ照律以テ決行
シテ可然ト存シ候ヘ氏彼ノ東京裁判所ノ伺

是等ノ事項明晰ナラサルヲ以テ或ハ如何ト
疑義ヲ生シ候間此段相伺候也

指令

東京裁判所へ指令ノ酌量輕減ハ明治七年第
百三十四號ノ布告ニ依ル者ノナリ強盜畏
懼隨行等ノ如キ本條ニ減等ノ明文アルモノ
ハ律ニ照シ直ニ決行スヘシ

第一百四十二條

明治九年二月七日指令同八年

六月十五日宮崎縣伺

凡犯罪者ノ情由百端ナルカ故ニ其罪名ヲ同

フスト雖モ其犯情一轍ニ出ル者歟ク概ネ各
犯各異ナリ就中盜犯ニ於テ大ニ情ノ深淺ア
リ不斷盜心ヲ懷挾シテ常産ヲ營ナマス密ニ
尖刀鑿鋸等ノ利器ヲ秘藏シ昏夜風雨等ニ乘
シ門戸牆壁ヲ穿テ或ハ倉庫ノ鎖鑰ヲ燬損シ
其他種々ノ巧術ヲ以テ出没盜ヲ為ス者アリ
如斯者ハ假令賊數少ナシト雖モ盜情ニ於テ
ハ至重トナス又深夜戸隙ヲ窺ヒ或ハ屋上ヲ
越へ或ハ屋上ヨリシ辛苦ヲ厭ハス忍入り盜
ヲ為ス者は盜情ノ中ナル者歟或ハ平常盜心

ナシト雖モ饑寒ニ迫リ或ハ白晝人ナク財ヲ
 目撃スルヨリ臨時盜心ヲ發スルアリ又ハ財
 ヲ搜シ假令ハ金五十圓ヲ搜シ得ルト雖モ内
 尺十圓ヲ窃取スル者ノ如キハ假令賊數多シ
 ト雖モ盜情ニ於テハ大ニ輕シトナス尤モ准
 盜ノ如キモ各犯情ノ輕重ナキト能ハス就テ
 ハ各賊數ヲ以テ窃盜條例ニ照スト雖モ明治
 七年第三百三十四號公布斷罪無正條々例ニ依
 リ前段三等ノ區別ヲ目的トシ情ノ重キハ本
 律ニ科シ中以下ニ於テハ五等ノ範圍中ニ於

テ酌量輕減シ准盜ニ至テモ右ニ准シ又各減
 等致シ不苦儀ニ候哉

指令

明治七年第三百三十四號公布條例輕減ノ儀ハ
 裁判官ノ見込ニ任ス

第四百十三條 明治九年五月十七日指令同年

四月十五日新川縣伺

第一 凡罪名正條アリト雖モ情輕クシテ斷
 罪無正條ニ依リ酌量輕減ヲ用ユルニ懲役十
 日ニテハ尚重キト思量スル片ハ減等無科ニ

處シ不苦哉

第二 同斷十日ニテハ重ク又無科ニシ難キ
情アル者ハ呵責シテ不苦哉然ルキハ其擬律
宣告ニハ減等ノ文字ヲ用ヒス情法ヲ酌量シ
テ呵責スト書スヘク哉

指令

第一 斷罪無正條ノ酌減法ハ罪正條アル者
ヲ情法ヲ酌^レ三律ノ範圍内ニテ輕減スル^レ
ニテ有罪者ヲ減シ盡スノ謂ニ非ス故ニ伺
面ノ如ク十日ニシテ重シト思量ストモ有

罪者ヲ減シ盡シテ無科ニ處スルコトヲ得
ス

第二 前條ノ通ニ付酌減法ヲ用ヒ無科呵責
ニ處スル^レハ之ナシ

○斷罪依新頒律

第四百十四條 明治九年五月二十二日指令同
年四月二十九日飾磨縣伺

名例律斷罪依新頒律條凡律ハ頒降ノ日ヨリ
始ト為ス云々舊律ヲ援引スル^レヲ得ストア
リ又改定律例第百條凡例モ亦頒行ノ日ヨリ

始ト為スト雖モ若シ事須例以前ニ在テ原律
 罪名輕キ者ハ仍ホ原律ニ依テ定擬ストアリ
 右律ト称シ例ト謂フハ專ラ新律改定須例ヲ
 指スカ如ク聞ユレハ一概此ニ限ラスシテ廣
 ク通用ス可キ儀ニ可有之果シテ然ラハ爾後
 單行頒布等ヲ以テ改正ナリタル條件ト雖モ
 都テ右例ニ准據シ可然ト存シ候ヘハ此段一
 應相伺候也

指令 伺ノ通

續擬律必携卷三終

版權免許

明治十年
三月三十一日

板主

長野縣手塚

正木

哲

東京第三大區三小區
上六番町三十二番地

發兌

東京第一大區六小區
日本橋本町十五番地

書肆

北畠茂兵衛

編輯人

茨城縣土城 横山成教

東京第三大區四小區
飯田町四丁目四番地

岐阜縣平民 渡邊義雄

東京第四大區二小區
小川町根桑町五番地

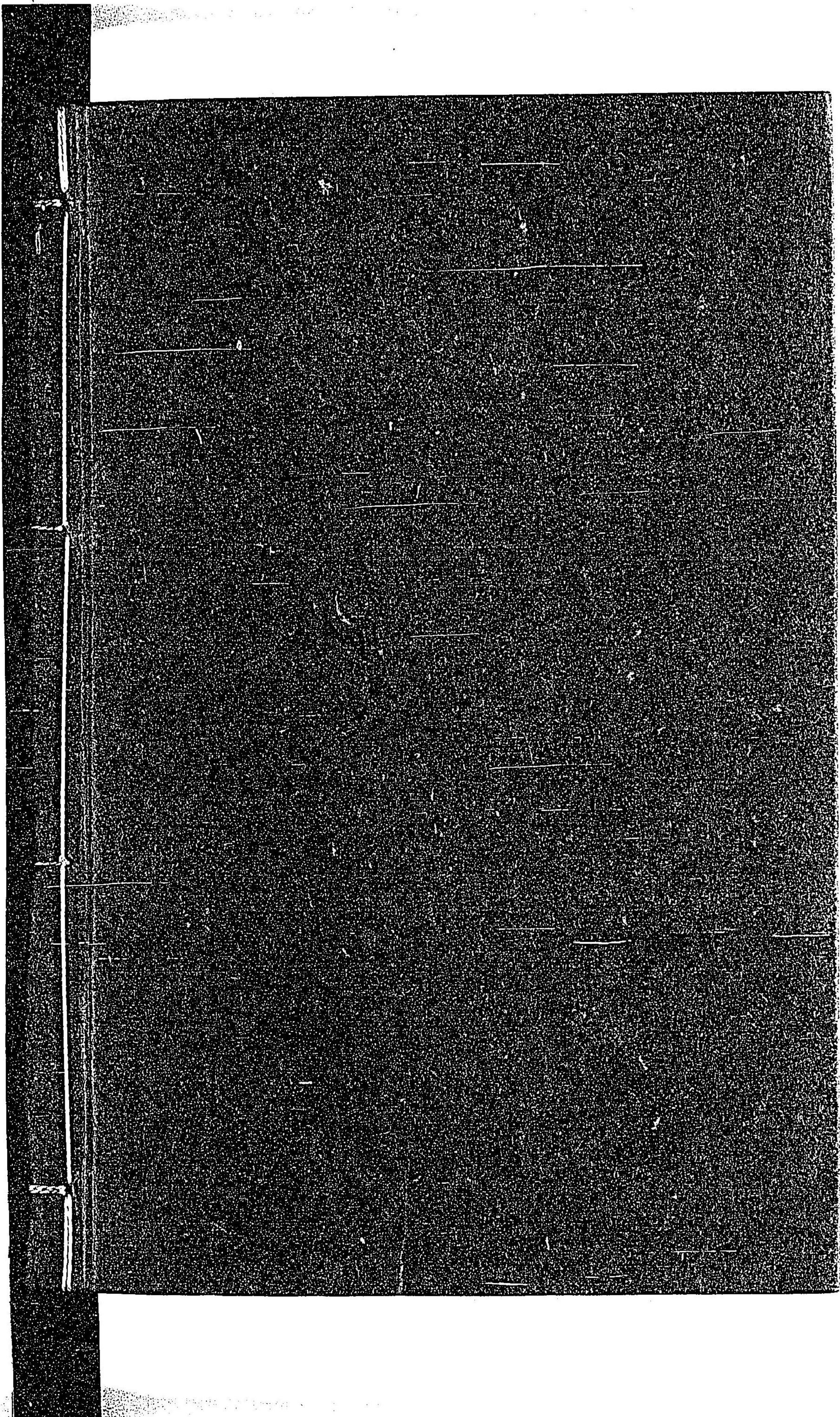
茨城縣茨城 佐久間希清

東京第六大區八小區
南本町五丁目四十六番地

三冊定價金三錢

1
11
49

1
49



続擬律必携 三

1

49

CZ

711

02